

ミュージアムにおけるパブリックドメイン作品の公開に関する

調査研究：デジタルアーカイブを事例として

A Study of Publication of Public Domain Works in Museums:

Focusing on Digital Archives

学籍番号：201521634

氏名：西川 開

Kai NISHIKAWA

近年、欧州の Europeana に代表される大規模なデジタルアーカイブの隆盛により、社会におけるパブリックドメイン作品の重要性に注目が集まっている。しかし、一方ではパブリックドメイン作品を含む文化資源全般に対する囲い込みが急速に進展しつつあるという指摘もなされている。

本研究では、デジタルアーカイブとそれを利用する際に課される種々の利用条件（ポリシー）に着目することで、パブリックドメイン作品の主要な担い手であるミュージアムにおけるその公開状況を明らかにすることを目的とする。

まず、日本を代表するミュージアムである国立博物館 4 館および現在パブリックドメイン作品のオープン化を強力に推進している Europeana と Rijksmuseum (アムステルダム国立美術館) を調査対象として、主にインタビュー調査とウェブサイト調査を用いることで、デジタルアーカイブ関連業務と所管デジタルアーカイブおよびそこで課されるポリシーの実態を明らかにした。

次いで、調査を通して得た知見を基に、ミュージアムにおけるパブリックドメイン作品の囲い込みの様態とその要因、およびオープン化を進める意義・効果を考察し、最後に今後日本において予期される統合型デジタルアーカイブの成立とそれに伴う制度環境の変動の下、ミュージアムに求められるものは何か、ミュージアムはそれにどう対処すべきか、について検討を加えた。

本研究の成果は主に、欧米を中心に蓄積されていたパブリックドメイン作品の囲い込みに関する先行研究の知見を日本の法環境に導入した点、「囲い込み」および「オープン化」を巡る議論の論点を整理した点、調査を通して得た知見により囲い込みやオープン化の諸要因を具体化した点にあると言える。

研究指導教員：水嶋 英治

副研究指導教員：逸村 裕